



「もんじゅ」のロゴマーク  
 智慧の象徴の文殊菩薩が乗って居られる  
 「獅子」をイメージしたもの

# 廃止措置作業の状況

## 主要作業の進捗状況

### しゃへい体等取出し作業

「もんじゅ」では、第2段階の主要作業である原子炉容器内のしゃへい体等を燃料池まで移送する「しゃへい体等取出し作業」を実施していましたが、昨年10月25日、機器の不具合が発生し、作業を中断しました。その後の調査で、燃料洗浄槽内に「燃料移送ポット（※）」の存在を確認し、これを不具合の原因と特定して、1月9日から「しゃへい体等取出し作業」の復旧に向け、「燃料移送ポット」の回収作業を開始しました。

回収にあたっては、「燃料移送ポット」とポットに納めたしゃへい体等を燃料出入機内部から同時に吊り上げる復旧方法のため、まず燃料出入機をつかみ具を「燃料移送ポット」専用のつかみ具に交換する作業を実施しました。燃料出入機内部は、ナトリウムが付着したしゃへい体等を取り扱うことから、今回、空気が入らないようにプラスチックの袋（プラバック）で空気を遮断しながらつかみ具の交換を行わなければなりません。そのため、入念な準備を行った上でつかみ具の交換を実施し、「燃料移送ポット」を回収し炉外燃料貯蔵槽まで戻す作業を1月24日に無事完了しました。今後は、設備の詳細な点検を実施し、設備に異常がないことを確認した上で、「しゃへい体等取出し作業」を再開いたします。

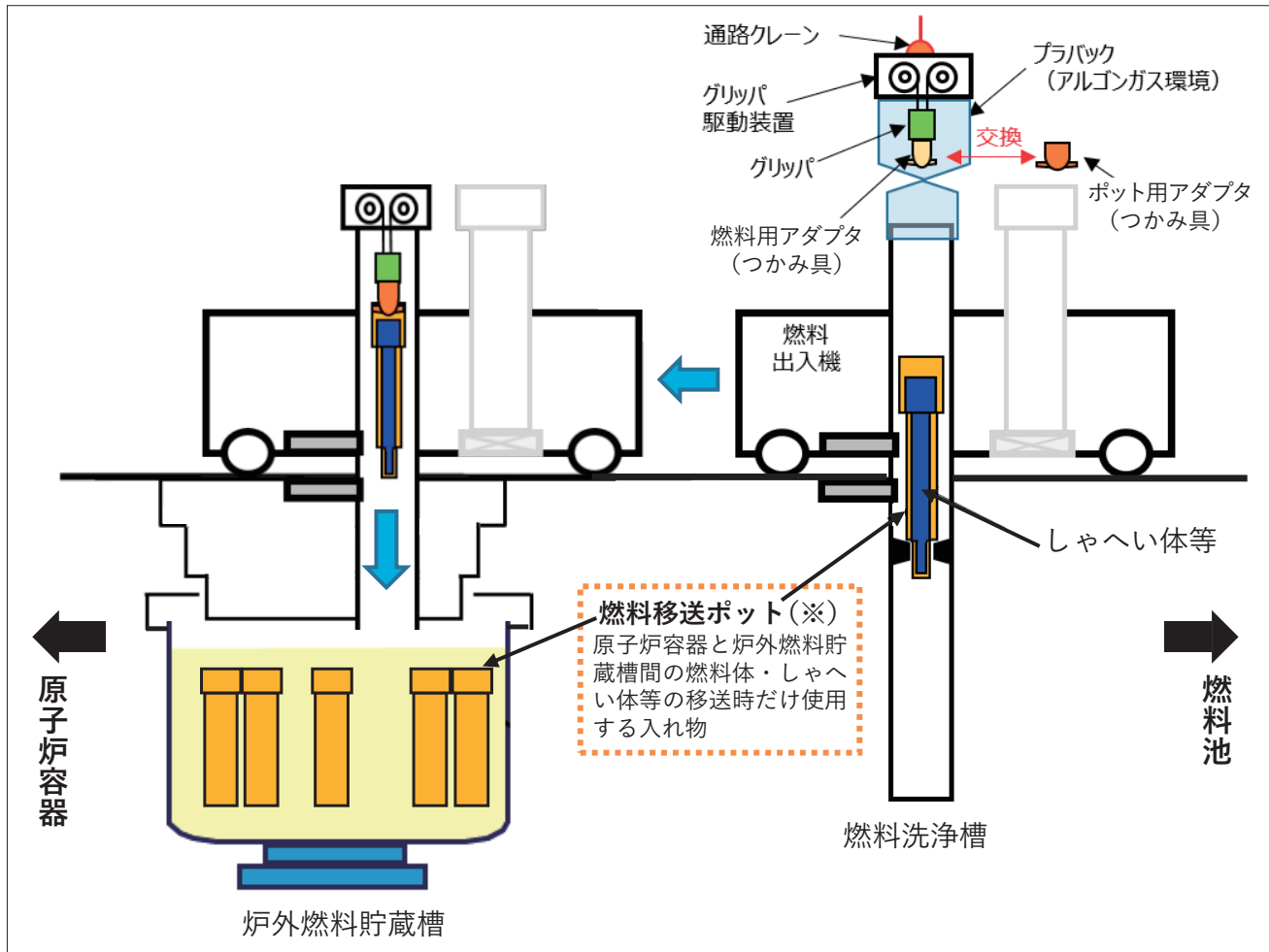


図 燃料移送ポット回収の流れ

## 水・蒸気系等発電設備の解体撤去

現在、もう一つの主要作業として、放射線の管理を必要としない区域(非管理区域)であるタービン建物の水・蒸気系等発電設備の解体撤去を昨年7月から進めています。

この作業は、「もんじゅ」の

廃止措置で初めての現場解体撤去作業で、「もんじゅ」の発電機能を担っていた重要な設備を取り除くのが主な作業となります。

主要な解体対象機器のうち、給水加熱器は、合計5基のうち1月末までに2基の解体を終え、現在3基目を解体中です。給水加熱器は、ター

ビンで発電に使われた蒸気が復水器で水に戻され、再び蒸気発生器に送られる際の加熱の役割を果たしていた設備です。この給水加熱器の機器を分解・解体撤去し、敷地外へ順次搬出していきます。

もう一つの主要な解体対象機器であるタービン発電機は、高圧・低圧タービンを覆っていた炭素鋼製のカバーを、クレーンを使って取り外し、運搬車両に積載可能なサイズに切断して敷地外に搬出していきます。また、タービンの羽根や回転軸は取り外して、今後の作業に干渉しないよう建物内の別の場所に移動、一時保管するなど、対象物の重量や大きさに応じて、適切な方法を選択しながら作業を進めています。

解体が中心となる廃止措置は一度進めてしまうと後戻りできないばかりでなく、解体作業場所の近辺で稼働中の設備もあるため、より一層の注意が必要となります。こういった手順で解体撤去していくのかを適切に計画するとともに、労働安全面での管理や対策も行いつつ、今後の廃止措置につながる知識、経験を蓄積しながら今後の解体撤去を安全第一で確実に進めてまいります。



低圧タービン外部車室のガス溶断作業の様子(2023年11月)

## 作業開始前 (2023年9月)



## 現状 (2024年2月)



高圧・低圧タービンカバー解体前後の様子